



出口しげのぶ です

若者 ユースステーションを各区に

若者の声を集めて 質問しました!

皆さんは、「ユースステーション」(以下YS)をご存知ですか。2013年4月に黒崎コムシティ内に開設された中高生が学校帰りや休日に気軽に立ち寄り、おしゃべりや自習が出来る施設、バンドやダンスなどの自主的な活動ができるスタジオやホールなど、若者が自分の持つ可能性を花開かせることのできる居場所となっている複合施設です。私は中高生へアンケート調査を行い、YSに満足して



高校生にアンケートを取る出口市議

アンケート結果

- 1、ユースステーションを知っていますか
36人に質問(八幡西区以外)
 - ①知っている 4人 (11%)
 - ②聞いたことがある 3人 (8%)
 - ③知らない 29人 (80%)
- 2、ユースステーションが身近にあれば利用したいか
46人に質問(小倉北区ムーブとAIMでの調査)
 - ①思う 41人 (89%)
 - ②思わない 1人 (2%)
 - ③わからない 3人 (6%)

いる「地元へも設置してほしい」の若者の声を力に9月議会でYS各区設置を求めて質問をしました。市長は「検討します」と答弁しました。その後他会派からも要望の声が上がりました。各区設置実現へ頑張ります。若い皆さんのご協力をお願い致します。

馬島・藍島の住民の負担軽減を

※離島振興法1条(目的)
離島について、人の往来及び生活に必要な物資等の輸送に要する費用が他の地域に比較して多額である状況を改善する

◆トイレや待合所の環境改善を約束

現在、離島

されていません。

振興として「猫の島」など魅力を発信し、国内外からも人気を集めています。ところが、島内には気軽に使用できる清潔な公衆トイレが完備

が必要だと市長に質問しました。市長は改善を約束しました。

◆住民のプロパンガスの運賃の軽減を検討



こくら航路新船「こくら丸」

法に基づいて住民の旅客運賃の値下げ、ガスボンベの運賃の100%減免を求めて市長に質問をしました。市長

ガスは島民の大事なライフラインです。以前から運賃の減免の声が上がっていたにもかかわらず来年度から値上げの方針です。私は離島振興

はガスボンベの運賃の減免の検討を約束しましたが旅客運賃の値上げは住民合意が得られていると答弁しました。

FOR ONE MILLION SMILES

100万人の笑顔のために

市議会ニュース

2018・11・1 No.538

9月議会の論戦で 浮き彫りになった北九州市の課題

9月議会は、本会議質問24人中13人が7月豪雨対策について取り上げました。
また、北橋市長の3期目最後の決算であり、市長の政治姿勢が問われる議会議論戦となりました。

7月豪雨対策 土砂災害の復旧と予防対策を

北九州市の7月豪雨被害は、死者2人、住宅被害424戸、がけ崩れ278箇所です。

これまで私有地の土砂撤去に市の支援はありませんでしたが、今回初めて実施され、被災者への郵送による制度の周知が行われました。

今回、土砂災害の防災ががけ崩れ対策で国の激甚指定を含む40箇所の事業が検討され一歩前進ですが、238箇所は対象外です。また、急傾斜地危険地域が836箇所あり、予防対策が急務です。



門司区羽山

井筒屋黒崎店、コレットの閉店―「市への相談はなかった」



市内唯一の百貨店閉店について、市はマスコミ発表まで知らされなかったといえます。2店舗の従業員1868人、テナント420店に影響が出ます。地域経済へ及ぼす問題だけに、市への情報・相談がなかったことは残念です。
日本共産党市議団は、8月3日、地域経済影響等の調査や再就職あっせん、緊急相談窓口の設置等を市長へ申し入れました。

市長の本気度が問われています

子ども医療



◎通院でも中学卒業まで

子育てで日本一を標榜する北九州市ですが、子ども医療で遅れた自治体となっています(下表)。通院で中学卒業までの費用は3億円です。スタジアムの赤字と借金返済に3億4千万円投入し、優先すべき事業が逆立ちしています。

商店応援



◎高崎市を学んで

北九州市の空き店舗対策は、群馬高崎市の商店リニューアル助成制度と比べて、年間の実施件数は3%以下で、金額でも1.6%と、北九州市の中小企業・商店への支援の遅れは重大です(下表)。

交通対策



◎おでかけ交通では限界

本市のお出かけ交通は、全路線が赤字で、事業者も負担するため、運賃上げと客離れ・路線廃止の悪循環に陥り破たん状態です。
公共交通のバス停までが遠く、急な坂道など移動が困難な高齢者へ、本市独自のタクシース券などの補助制度の創設を求めました。

子ども医療の状況(通院で中学卒業まで)

全 国	86%が実施
政 令 市	20政令市中12市
周辺自治体	10市町中8市町

商店応援のちがいを

	商店支援制度	5年間の平均	
北九州市 (空き店舗補助)	家賃補助は家賃の1/2(1年のみ)又は改装費の1/2で75万円以内	15件	566万円
高崎市 (商店リニューアル助成制度)	小売、サービス、飲食店の改装費、備品購入双方の1/2で100万円以内	502件	3億6千万円

北橋市長の「公約やぶり」いいのでしょうか!



2007年市長選挙のチラシ

2007年市長選挙時の3大公約「採算の取れない大型箱モノへの税金投入はやめよう」「市長退職金の廃止」は、すでに破られました。スタジアム建設に115億円、破綻したひびきコンテナターミナルの買い取りに40億円を投入。退職金辞退は1期目のみです。前市長の多選批判から「任期は3期まで」は、4期目が報道される中、本会議での我が党議員の質問に、まともな答弁はありませんでした。

提案

●危険なブロック塀の改善を

道路に面した高さ1m以上の危険なブロック塀の除却等への補助制度が全国で広がっています。横浜市では、除去費用の9割助成、軽量フェンス工事費の5割助成で合計30万円を限度に補助。本市は5割助成で12万円の上限の除去費用だけです。党市議団は、補助率・額の引き上げと、新たにフェンス等設置の助成を求めました。

●旧門司競輪場跡地の民間売却はストップを

門司競輪場跡地を活用した公共施設再配置は、スポーツ施設の集約、公園の整備、民間売却によるマンション(100戸)戸建て30軒建設の居住ゾーンの計画です。党市議団は、市民説明会では民間売却反対が圧倒的で、こうした声を活かし、住民のための活用策を求めました。

●地震対策一家具固定を

党市議団は、地震から身を守る家具固定の普及促進するために、住宅と事業所等を家具固定の状況把握と普及目標を設けるよう求めました。また、市庁舎の家具・什器類の固定率が不明であり、災害時の拠点としての脆弱性が放置されている問題を指摘しました。

●八幡市民会館の文化的建築物の調査を

市は八幡市民会館を埋蔵文化財センターとして活用する考えを示しました。党市議団は、ドコモモジャパン等の協力も得て、歴史と文化的建築的価値の調査を求めました。市は「記録を残すことを念頭に調査を検討」にとどまりました。

主な意見書に対する会派の態度

新スタジアム
赤字と借金返し
毎年3億4千万円
投入



	提案会派	共産党 10人	自民党 21人	公明党 13人	北九 州上 11人	あふ おか 1人	希望 と未 来派 1人	賛否
キャッシュレス社会の実現を求める意見書	公明党	×	○	○	○	×	×	可決
女性差別をなくし、等しく教育を受ける権利、職業を選ぶ権利の保障を求める意見書	ハートフル北九州	○	×	×	○	○	○	否決
普天間基地の即時閉鎖と撤去及び辺野古への米軍新基地の建設の中止を求める意見書	共産党	○	×	×	×	○	○	否決
障害者雇用率の水増し問題の徹底究明と防止対策を求める意見書	共産党	○	×	×	○	○	○	否決
水道法改正案に反対する意見書	共産党	○	×	×	×	×	○	否決

若戸大橋・トンネル

無料化 12/1 スタート

56年間の 市民の悲願実る！



日本共産党は、1962年開通した直後から「若戸大橋は生活道路！通行料は無料に」と訴え続けて56年になります。一貫して市議会で追及し、1989年には「若戸大橋の無料化を求める会」をはじめ市民のみなさんと一緒に裁判まで行ってきました。

また、若戸大橋の無料化を求める市議会への請願・陳情に対して賛成してきたのは日本共産党だけでした。1999年9月議会で、「若戸大橋を市が買い取り、新トンネルとの一元管理で料金を半額程度に引き下げる」ことを提案し無料化への第一歩を踏み出しました。こうした住民との共同をねばり強くすすめる中、2009年ごろから若松区選出の全議員が無料化を訴え、ついに12月1日から、若戸大橋・トンネル通行料が無料化されます。市民の悲願がようやく実現することになりました。

海外視察の廃止を提案・決定



10月2日10人全員で議長に申し入れ



党市議団は、市民所得が低迷し、介護保険料の引き上げなど市民生活の深刻さを増す中、海外視察は自粛するよう提案してきました。党市議団は、10月2日、議長に対し「議員の海外視察は、2019年度から廃止」と「特定の重要課題について外国の先進事例を調査・研究することが必要である場合は、議会としてその都度協議し決定すること」を申し入れました。10月5日、海外視察の報道がされ、多くの批判の聲が上がっています。市民からの批判を受け、他の3党派も廃止を表明。市議会として慣例的な海外視察の廃止を決めました。

日本共産党 先進都市を視察して、本会議質問しました

日本共産党北九州市会議員団は、進んだ自治体の取り組みを学ぶために視察し、北九州市政に活かすために、議会で提案をおこなっています。2010年には、福島県いわき市を訪問して、地元の工務店や建設職人が元気になっている住

宅リフォーム助成制度を学び、他の会派と協力して実現しました。

今年も新潟市の幹線・支線・生活路線を連携した交通政策を学び、議会で取り上げました。市の担当部局も視察を検討しています。